

## 1・2号機共用排気筒ダクト接続部のひび割れの応急対策について (続報)

平成 16 年 12 月 27 日

平成 16 年 12 月 17 日午後、当社社員が、定期点検中の 1・2号機の共用排気筒 ( 1 )とダクト ( 2 )の接続部に筋状模様を確認しました。

12 月 19 日に、当該部周辺の一部を外観目視調査したところ、排気筒の周方向 2 箇所、塗装のひび割れ (長さ約 2m と約 1m)があるのを確認しました。また、その一部について塗装を除去して調査したところ、排気筒の本体表面部にひび割れが発生していることを確認しました。

(平成 16 年 12 月 20 日お知らせ済み)

12 月 21 日、当該部位の漏えい確認試験 ( 3 )により、ひび割れ箇所の一部から空気が漏えいしていることを確認しました。

(平成 16 年 12 月 21 日お知らせ済み)

確認されたひび割れについて健全性評価 ( 4 )を行い、排気筒が現状でも十分な強度を維持していることを確認しましたが、ひび割れがさらに進展することを防止するために応急対策を実施することとしました。

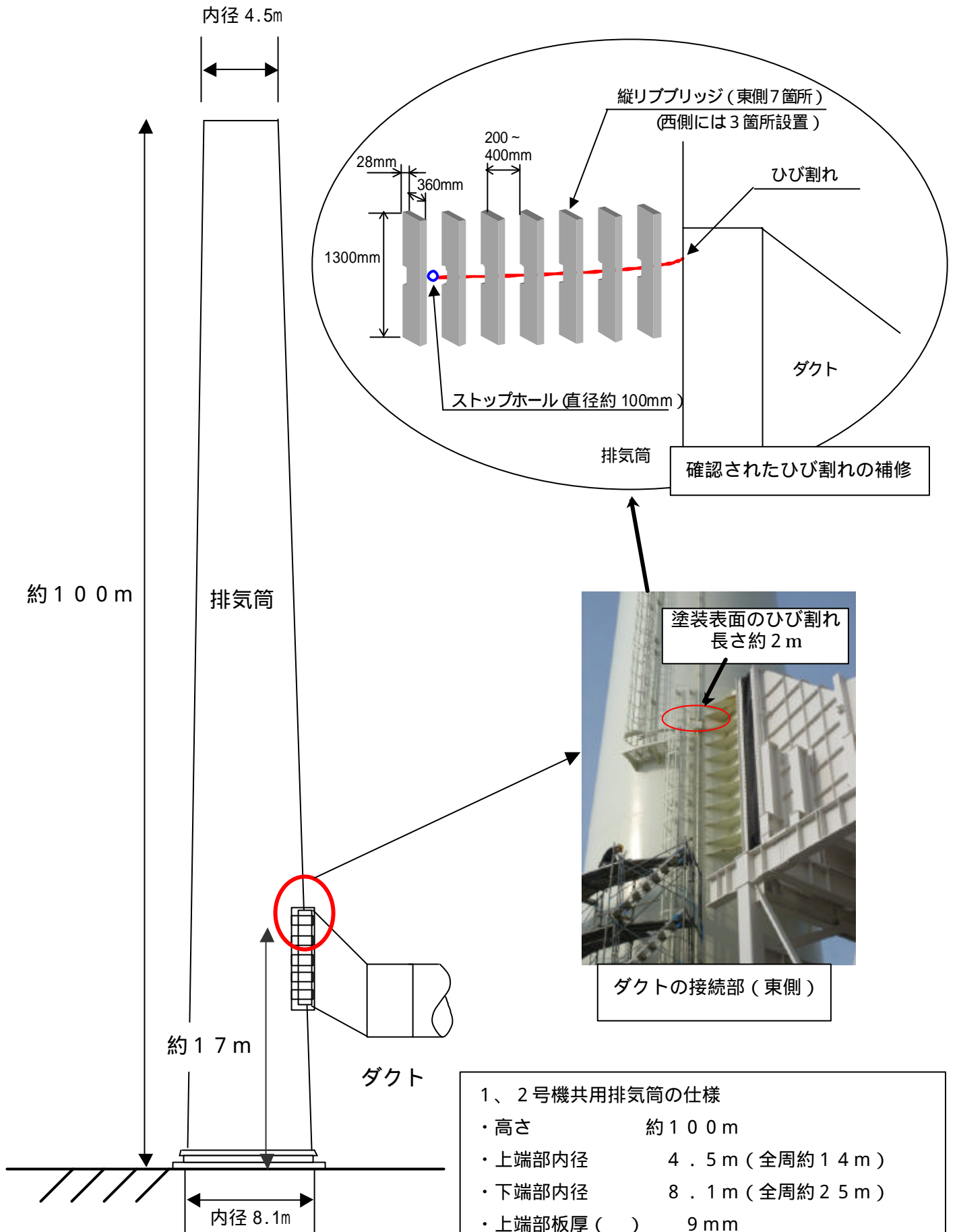
ひび割れ箇所の上下をはさむようにブリッジ状の金属板 (縦リブリッジ)を溶接し、補強するとともに、ひび割れの先端部を孔開け加工 (ストップホール ( 5 ))し、ひび割れの進展を防止する形状にします。

これらの作業は昨日 (12月26日)から実施しており、明日終了する予定です。

今後は、ひび割れ箇所の金属サンプル採取を行い、発生原因の調査等を進めてまいります。

- 1 排気筒は、原子力施設内の空気を大気中に放出するための円筒状の排気設備であり、高さは約 100m あります。
- 2 原子力施設内の空気を排気筒に導く設備です。
- 3 石鹼水等によりひび割れからの空気の漏えいを確認し、ひび割れが貫通しているかを確認する試験です。
- 4 確認したひび割れが全て貫通している状態で、耐震安全性が確保されていることを確認しました。
- 5 ひび割れの先端に円孔を開けることにより、先端部での高い応力集中を軽減し、ひび割れの進展を防止するものです。

以上



1、2号機共用排気筒の仕様

- ・高さ 約 100 m
- ・上端部内径 4.5 m (全周約 14 m)
- ・下端部内径 8.1 m (全周約 25 m)
- ・上端部板厚 ( ) 9 mm
- ・下端部板厚 ( ) 29 mm
- (当該部付近板厚 約 26 mm)

排気筒は鋼鉄製であり、内面には約 80 mm のモルタルの内張がされています。